

Title	水野直樹教授 略歴・著作目録
Author(s)	
Citation	人文學報 (2017), 110: 387-399
Issue Date	2017-07-31
URL	https://doi.org/10.14989/231137
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

水野直樹教授 略歴・著作目録

I 略 歴

年	月	
1969	・ 3	京都市立紫野高等学校卒業
1974	・ 3	京都大学文学部（史学科現代史学専攻）卒業
1977	・ 3	京都大学大学院文学研究科修士課程修了
1981	・ 3	同 博士課程学修・退学
1981	・ 4	京都大学文学部研修員（1984年3月まで）
1984	・ 4	日本学術振興会奨励研究員（1985年3月まで）
1985	・ 3	京都大学文学部より博士学位授与
1985	・ 4	橘女子大学歴史学科助教授（1991年3月まで） （1988年4月より京都橘女子大学に改称）
1991	・ 4	京都大学人文科学研究所助教授
1994	・ 4	京都大学文学研究科協力講座教員（現在に至る）
2000	・ 4	京都大学人文科学研究所教授（現在に至る）
2009	・ 4	同研究所所長（2011年3月まで）
2016	・ 3	京都大学定年退職（同・名誉教授）

II 著作目録

A 著 書

1	天皇制と朝鮮（共著）	神戸学生・青年センター出版部	1989
2	『アリランの歌』覚書（共編著）	岩波書店	1991
3	東北アジアの過去・現在・未来 ——統一コリアを望みつつ——（共著）	金沢大学大学教育開放センター	1991
4	シンポジウム・東アジアの中の日本と韓国・朝鮮	京都国際交流センター	1992
5	아리랑 그후: 김산과 님 웨일즈（共編著）	동녘（ソウル）	1993
6	『京都に生きる在日韓国・朝鮮人』（共著）	京都市国際交流協会	1994
7	朝鮮近現代史における金日成（共著）	神戸学生青年センター出版部	1996
8	論集 朝鮮近現代史（共編）	明石書店	1996
9	京都における朝鮮人の歴史・資料集（第1冊） ——『社会時報』関係記事——（編）	世界人権問題研究センター	1997

10	戦時期 植民地統治資料 全7巻(編)	柏書房	1998
11	朝鮮総督諭告・訓示集成 全6巻(編)	緑蔭書房	2001
12	日本の植民地支配 ——肯定・賛美論を検証する——(共編)	岩波書店	2001
13	歴史教科書の可能性 ——「つくる会」史観を超えて——(共編)	青木書店	2002
14	朝鮮人留学生たちの京都	同志社大学人文科学研究所	2003
15	日朝交渉 —— 課題と展望 —— (共編)	岩波書店	2003
16	生活の中の植民地主義(編著)	人文書院	2004
17	생활 속의 식민주주의(編著)	산처럼 (ソウル)	2007
18	ВКП(б), Коминтерн и Корея 1918-1941. (共編)	ОССПЕН (モスクワ)	2008
19	創氏改名 —— 日本の朝鮮支配の中で ——	岩波書店	2008
20	창씨개명: 일본의 조선지배와 이름의 정치학	산처럼 (ソウル)	2008
21	京都と韓国の交流の歴史 全5冊(共著)	韓国民団京都市本部	2007-2010
22	図録 植民地朝鮮に生きる —— 韓国・民族問題研究所所蔵資料から —— (共編著)	岩波書店	2012
23	在日朝鮮人 歴史と現在(共著)	岩波書店	2015
24	재일조선인 —— 역사, 그 너머의 역사 —— (共著)	삼천리 (ソウル)	2016
25	朝鮮衡平運動史料集(監修)	解放出版社	2016

B 翻 訳

1	『分断時代の民族文化』(共訳)	社会思想社	1979
2	姜萬吉著『韓国民族運動史論』	御茶の水書房	1985
3	朝鮮民衆新聞社編『写真集 朝鮮解放1年』	新幹社	1994

C 論 文

1	新幹会運動に関する若干の問題	『朝鮮史研究会論文集』14集 (『新幹會 研究』동녘 (ソウル) 1987年, 『日帝下 植民地時代の民族運動』폴빛 (ソウル) 1981年に訳載)	1977
2	韓国における治安法体系の形成	『季刊三千里』10号	1977
3	新幹会東京支会の活動について	『朝鮮史叢』1号(『新幹會 研究』동녘 (ソウル) 1987年, に訳載)	1979
4	治安維持法と朝鮮・覚え書き	『朝鮮研究』188号	1979
5	日本の社会主義者と朝鮮	『歴史公論』6巻8号	1980・8
6	「雨の降る品川駅」の事実しらべ	『季刊三千里』21号	1980
7	新幹会の創立をめぐる	飯沼二郎・姜在彦編『近代朝鮮の社会と思想』未来社 (『한국근대사회와 사상』중원문화 (ソウル) 1984年, に訳載)	1981
8	弁護士・布施辰治と朝鮮	『季刊三千里』34号	1983

9	コミンテルンと朝鮮 —— 各大会の朝鮮代表の検討を中心に ——	『朝鮮民族運動史研究』1号 (임영태편『植民地時代 韓國社會와 運動』사계절출판사(ソウル)1985年に記載)	1984
10	コミンテルン第七回大会と在満朝鮮人の抗日闘争	『歴史評論』423号	1985・7
11	朝鮮における新幹会運動とコミンテルンの民族統一戦線論	『橘女子大学研究紀要』14号 (『역사비평』1988年春号に 記載)	1987
12	黄埔軍官学校と朝鮮の民族解放運動	『朝鮮民族運動史研究』6号	1989
13	東方被圧迫民族連合会(1925-27)について	狭間直樹編『中国国民革命 の研究』京都大学人文科学 研究所	1992
14	呂運亨と中国国民革命 —— 中国国民党第二次代表 大会における演説 ——	『朝鮮民族運動史研究』8号 (『夢陽呂運亨全集 3』한울 (ソウル), に記載)	1992
15	朝鮮総督府の「内地」渡航管理政策 —— 1910年代の労働者募集取締 ——	『在日朝鮮人史研究』22号	1992
16	在日韓国・朝鮮人の歴史(2) —— 解放前大阪を中 心とする在日朝鮮人運動 ——	飯沼次郎編『足もとの国際 化 —— 在日韓国・朝鮮人の 歴史と現状』海風社	1993
17	1920年代日本・朝鮮・中国におけるアジア認識の一 断面 —— アジア民族会議をめぐる三国の論調	古屋哲夫編『近代日本のア ジア認識』京都大学人文科 学研究所	1994
18	韓国民族運動과 治安維持法	光復会ほか主催『韓국의 民 族独立運動과 光復 50 周年』 國際學術シンポジウム論文 集	1995
19	在満朝鮮人親日団体民生団について	水野直樹他編『論集 朝鮮 近現代史』明石書店	1996
20	在日朝鮮人・台湾人参政権「停止」条項の成立	世界人権問題研究センター 『研究紀要』1号	1996
21	在日朝鮮人・台湾人参政権「停止」条項の成立(続)	世界人権問題研究センター 『研究紀要』2号	1997
22	戦時期の植民地支配と「内外地行政一元化」	『人文学報』79号	1997
23	朝鮮人の国外移住と日本帝国	岩波講座『世界歴史』19巻	1999
24	治安維持法の制定と植民地朝鮮	『人文学報』83号	2000
25	満洲抗日闘争の転換と金日成	『思想』912号	2000・6
26	「第三国人」の起源と流布についての考察	『在日朝鮮人史研究』30号	2000
27	国籍をめぐる東アジア関係 —— 植民地期朝鮮人国籍問題の位相 ——	古屋哲夫・山室信一編『近 代日本における東アジア問 題』吉川弘文館	2001
28	조선 식민지 지배와 이름의 '차이화'	『사회와 역사』59号	2001
29	コミンテルンの朝鮮共産党承認をめぐる	『青丘学術論集』18集	2001
30	植民地支配と名前 —— 朝鮮支配初期の「名前」政 策についての研究ノート ——	『二十世紀研究』2号	2001
31	朝鮮植民地支配と名前の「差異化」 —— 「内地人ニ 紛ハシキ姓名」の禁止をめぐる ——	山路勝彦・田中雅一編著 『植民地主義と人類学』関西 学院大学出版会	2002
32	歴史の「見直し」は進むか	『現代思想』総特集「日朝関 係」	2002・11

- 33 조선에 있어서 치안유지법 체제의 식민지적 성격 『법사학연구』 26号 2002
- 34 戦時期朝鮮における治安政策
——「思想浄化工作」と大和塾を中心に—— 『歴史学研究』 777号 2003・7
- 35 植民地支配政策史研究の現状と課題 『世界の日本研究 2002 —— 日本統治下の朝鮮：研究の現状と課題』 国際日本文化研究センター 2003
- 36 植民地独立運動に対する治安維持法の適用 —— 朝鮮・日本「内地」における法運用の落差 —— 浅野豊美・松田利彦編 『植民地帝国日本の法的構造』 信山社 2004
- 37 1930년대 후반 조선에서의 사상 통제 정책 —— 함경 남북도의 ‘사상 정화 공작’과 그 이데올로기 —— 방기중 편 『일제 파시즘 지배 정책과 민중 생활』 해안(ソウル) 2004
- 38 戦時期朝鮮の治安維持体制 岩波講座『アジア・太平洋戦争』 7卷 2006
- 39 初期コミンテルン大会における朝鮮代表の再検討 「初期コミンテルンと東アジア」研究会編著『初期コミンテルンと東アジア』 不二出版 2007
- 40 동화와 차이화
——일본의 식민지 지배와 “창씨개명”—— 연세대학교 국학연구원 편 『일제 식민지 시기 새로 읽기』 해안(ソウル) 2007
- 41 식민지기 조선의 일본어 신문 『역사문제연구』 18집 2007
- 42 植民地期朝鮮の思想検事 『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』 (International Symposium 30) 国際日本文化研究センター 2008
- 43 思想検事たちの「戦中」と「戦後」
—— 植民地支配と思想検事 —— 松田利彦・やまだあつし編 『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』 思文閣出版 2009
- 44 植民地期朝鮮における伊藤博文の記憶
—— 京城の博文寺を中心に —— 伊藤之雄・李盛煥編 『伊藤博文と韓国統治』 ミネルヴァ書房 2009
- 45 식민지기 조선에서의 이토 히로부미의 기억 —— 서울(京城)의 박문사(博文寺)를 중심으로 —— 이성환=이토 유키오 편 『한국과 이토 히로부미』 선인(ソウル) 2009
- 46 Research regarding the History of Japanese Government Policies during Colonial Rule *Korea Under Japanese Rule: Past and Current Research Results and Issues for Future Research.* International Research Center for Japanese Culture 2009
- 47 「帝国日本」の植民地支配 藤井譲二・伊藤之雄編著 『日本の歴史 近世・近現代編』 ミネルヴァ書房(『쇼군/천황/국민 —— 일본의 역사』 서해문집(パジユ), 2012年, に記載) 2010
- 48 「博文寺の和解劇」と後日談 —— 伊藤博文, 安重根の息子たちの「和解劇」・覚え書き —— 『人文学報』 第101号 2011

- 49 皇民化政策の虚像と実像
——「皇国臣民の誓詞」についての一考察—— 国立歴史民俗博物館編 『「韓国併合」100 年を問う 2010 年国際シンポジウム』 岩波書店 2011
- 50 尹東柱・宋夢奎の「朝鮮独立運動事件」判決文を読む 『立命館 平和 研究』 12 号 (『다시 올 문 화』 2013 年秋号, 류양선 편 『윤동주 시인을 기억하며』 다시 올 (ソウル) 2015 年, に訳載) 2011
- 51 創氏改名時代の族譜
—— 父系出自集団の対応に注目して —— (共著) 『東京大学 韓国朝鮮文化研究』 11 号 2012
- 52 伊藤博文の「メモ」は「韓国統治構想」といえるものか —— 伊藤之雄氏の所説への疑問 —— 『日本史研究』 第 602 号 2012・10
- 53 日本帝國大學의 朝鮮人留學生 研究 (1) (共著) 『대동문화연구』 80 집 2012
- 54 咸鏡北道における思想浄化工作与郷約・自衛団 松田利彦・陳姪媛編 『地域社会から見る帝国日本と植民地』 思文閣出版 2013
- 55 A Propaganda Film Subverting Ethnic Hierarchy?: “Suicide Squad at the Watchtower” and Colonial Korea *Cross-Currents*, Vol. 2 No. 1 2013
- 56 「京城都市構想図」に関する研究 (共著) 『日本建築学会計画系論文集』 78 巻 687 号 2013・6
- 57 1920 년대 오사카의 노동하숙
—— 조선인 노동자의 정착 과정과 관련해서 —— 청암대학교 재일코리안연구소 편 『재일코리안 디아스포라의 형성——이주와 정주를 중심으로——』 선인 2013
- 58 日本の戦後体制と在日朝鮮人 —— 参政権の「停止」と日本国憲法の制定過程をめぐって —— 『戦争責任研究』 80 号 2013
- 59 「皇民化政策」の本質を考える
——「皇国臣民の誓詞」をめぐって—— 笹川紀勝監修 『国際共同研究 韓国強制併合 100 年 歴史と課題』 明石書店 (『한일 강제병합 100 년의 역사와 과제』 동북아역사재단 (ソウル), 2013 年, に訳載) 2013
- 60 悲劇はなぜ起こったか 朝鮮北部の日本人埋葬地が語るもの 『世界』 851 号 2014・1
- 61 Stories from Beyond the Grave: Investigating Japanese Burial Grounds in North Korea *The Asia-Pacific Journal: Japan Focus*, Vol. 12, Issue 9, No. 5 2014
- 62 朴錫胤 —— 植民地期最高の朝鮮人エリート —— 『講座 東アジアの知識人』 4 巻, 有志舎 2014
- 63 전전기 재일코리안을 묘사한 미술 작품 청암대학교 재일코리안연구소 편 『재일코리안의 생활 문화와 변동』 선인 (ソウル) 2014
- 64 治安維持法による死刑判決
—— 朝鮮における弾圧の実態 —— 『治安維持法と現代』 28 号 2014
- 65 「京城都市構想図」における景福宮域の再編計画案の立案時期とその特徴 (共著) 『日本建築学会計画系論文集』 80 巻 707 号 2015・3
- 66 在間島日本領事館と朝鮮総督府
——「間島共産党事件」をめぐる協力と対立—— 『人文学報』 106 号 2015

D 小論文, エッセイ, 書評, 解説など

- 1 「雨の降る品川駅」の朝鮮語訳をめぐって 『中野重治全集』(第3巻) 1977・6
月報8
- 2 1920年代後半の在日朝鮮人運動
——新幹会東京支会を中心に—— 『朝鮮史研究会会報』51号 1978
- 3 日本における新幹会運動
——東京支会の活動について—— 『季刊三千里』15号 1978
- 4 (紹介) 崔民之・金民珠『日帝下民族言論史論』 『朝鮮史研究会会報』55号 1979
- 5 特集「近代の日本と朝鮮」関係文献解説 『歴史公論』57号 1980・8
- 6 1980年の歴史学界 回顧と展望 朝鮮(二) 『史学雑誌』90編5号 1981・5
- 7 民族解放闘争史 朝鮮史研究会編『新・朝鮮
史入門』龍溪書舎(『새로운
韓國史入門』돌베개(ソウ
ル), 1983年) 1981
- 8 (書評) 梶村秀樹『朝鮮史の枠組と思想』 『朝日ジャーナル』24巻28号 1982・7・2
- 9 朝鮮関係のロシア語文献目録二種 『朝鮮史研究会会報』68号 1982
- 10 並木報告批判 『朝鮮史研究会会報』69号 1983
- 11 コミンテルン各大会の朝鮮人参加者について 『朝鮮史研究会会報』70号 1983
- 12 朝鮮 近代(Ⅱ) 『アジア歴史研究入門』2巻, 1983
同朋舎
- 13 緑豆將軍の故郷 『世界の国シリーズ15 朝
鮮・モンゴル』講談社 1983
- 14 (書評) 慎英弘『近代朝鮮社会事業史研究』 『日本読書新聞』2280号 1984・10・29
- 15 (民族運動史上の人物) 韓偉健 『朝鮮民族運動史研究』1号 1984
- 16 ソ連における朝鮮史研究と資料状況 『朝鮮史研究会会報』82号 1985
- 17 (民族運動史上の人物) 康基徳 『朝鮮民族運動史研究』2号 1985
- 18 (民族運動史上の人物) 韓偉健(追補) 『朝鮮民族運動史研究』3号 1986
- 19 黄埔軍官学校に学んだ朝鮮人たち 『朝鮮史研究会会報』86号 1986
- 20 解題 朝鮮総督府警務局編『最近
に於ける朝鮮治安状況 昭
和11年5月』(復刻版)不
二出版 1986
- 21 (書評) 姜萬吉『朝鮮近代史』『朝鮮現代史』 『週刊読書人』1648号 1986・9・8
- 22 日本の朝鮮支配と治安維持法 『季刊三千里』47号(旗田
巍編『朝鮮の近代史と日本』
大和書房, 1987年, に再録)
ニム・ウェールズ, キム・ 1987
サン著(松平いを子訳)『ア
リランの歌』岩波文庫
- 23 補注
- 24 新幹会運動に関する研究一覧 『朝鮮史研究会会報』88号 1987
- 25 (民族運動史上の人物) 金星淑 『朝鮮民族運動史研究』4号 1987
- 26 ニム・ウェールズ著『アリランの歌』をめぐって 『朝鮮史研究会会報』92号 1988
- 27 梶村さんの志に学ぶ 『朝鮮史研究会会報』96号 1989
- 28 小説「奇妙な武器」解説 『民濤』10号(『월간 다리』
1990年1月号に訳載) 1990
- 29 国際関係における「情報」の役割 『らいぶらり』(京都橘女子
大学図書館)6号 1990

30	朝鮮総督府の治安対策	『朝鮮史研究会会報』98号	1990
31	朝鮮史研究会の合宿で	『梶村秀樹著作集・別巻 回想と遺文』明石書店	1990
32	『消された言論』と治安維持法	『未来』290号	1990・11
33	(民族運動史上の人物) 呉成崙	『朝鮮民族運動史研究』7号	1991
34	韓国における民族解放運動史研究の近況	『朝鮮史研究会会報』104号	1991
35	京都府の朝鮮人強制連行	大阪人権歴史資料館編『朝鮮侵略と強制連行』解放出版社	1992
36	朝鮮人への補償 —— もう一つの視点	『朝日新聞』2月25日	1992
37	日本の朝鮮植民地支配の実態とその不当性について	朝鮮人強制連行真相調査団編『検証・朝鮮植民地支配と補償問題』明石書店	1992
38	(民族運動史上の人物) 李鏞	『朝鮮民族運動史研究』8号	1992
39	解説	『徐君兄弟を救うために・合本』影書房	1992
40	「現代朝鮮への視座」解説・解題	『梶村秀樹著作集』5巻, 明石書店	1993
41	日本の「アジア主義」と朝鮮問題 —— 1926・27年のアジア民族会議をめぐって ——	『朝鮮史研究会会報』116号	1994
42	(논문서평) 민족협동전선 연구의 신기원 —— 이균영 『신간회연구』 ——	『역사비평』26호	1994
43	(民族運動史上の人物) 楊林 (金勲)	『朝鮮民族運動史研究』10号	1994
44	植民地支配の実像 —— 渡日の背景と戦後責任 ——	枚方市教育委員会編『在日朝鮮人の歴史 —— 枚方での掘り起こしのために ——』	1994
45	解説	徐勝『獄中19年 —— 韓国政治犯のたたかい ——』岩波書店	1994
46	歴史研究の対象となる金日成	『京都新聞』1月6日	1995
47	親日派	『NIRA 政策研究』(総合研究開発機構) 8巻10号	1995・10
48	蘇る『アリランの歌』の主人公	『図書』554号	1995・8
49	私にとっての在日朝鮮人史研究	『在日朝鮮人史研究』25号	1995
50	選挙法にひそんだ偏見 —— 定住外国人の参政権・「戸籍条項」の成立事情	『京都新聞』12月12日ほか (共同通信配信)	1995
51	大会テーマについて	『朝鮮史研究会会報』125号	1996
52	「戦後50年」「憲法50年」と在日外国人の人権	『グローブ』4号	1996
53	在日朝鮮人・台湾人の参政権を「停止」した二つの文書	『青鶴』8号	1996
54	植民地支配と歴史認識	『市外教』(大阪市外国人教育研究協議会) 57号	1996
55	浮島丸事件のゆくえ —— 殉難者追悼碑にこめられた思い ——	『グローブ』8号	1997
56	尹東柱と京都在住朝鮮人	尹東柱詩碑建立委員会編『星うたう詩人 —— 尹東柱の詩と研究』三五館	1997
57	姜在彦先生の朝鮮史研究	『季刊 SAI』22号	1997

58	在日朝鮮人の参政権はなぜ「停止」されたか	『アリラン通信』12号	1997
59	再論・戦後在日朝鮮人参政権「停止」条項の成立	『朝鮮史研究会会報』126号	1997
60	蔵田雅彦氏の逝去を悼む	『朝鮮史研究会会報』128号	1997
61	在住外国人問題を考える	『研修情報』946号（京都府職員研修所）	1997
62	第三海軍火薬廠朝来工場跡・在日大韓基督教京都南教会	『人権ゆかりの地をたずねてⅢ』京都人権啓発推進会議	1997
63	青丘文庫の紹介	『書燈』261号（神戸市立中央図書館）	1997
64	（書評）和田春樹著『北朝鮮——遊撃隊国家の現在——』	『図書新聞』2393号	1998・6・13
65	（書評）姜徳相『朝鮮人学徒出陣——もう一つのわだつみのこえ——』	『朝鮮史研究会会報』132号	1998
66	解説——朝鮮近代史のスタンダード——	姜在彦『〔増補新訂〕朝鮮近代史』平凡社ライブラリー	1998
67	海軍火薬廠跡・京都南部教会	世界人権問題研究センター編『京都人権歴史紀行』人文書院	1998
68	鄭信哲報告へのコメント——朝中関係史・相互認識におけるいくつかの問題点——	山室信一編『国際シンポジウム 日本・中国・朝鮮間の相互認識と誤解の表象』京都大学人文科学研究所	1998
69	朴慶植先生を偲ぶ	『在日朝鮮人史研究』28号	1998
70	宇治川水電工事と朝鮮人労働者	『人権ゆかりの地をたずねて』（乙訓・南山城編）京都人権啓発推進会議	1999
71	第三海軍火薬廠朝来工場跡	『きょうと府民だより』219号	1999・7
72	戦時強制労働の現場——大江山ニッケル鉱山跡——	『グローブ』20号	2000
73	（書評）琴秉洞著『日本の朝鮮侵略思想』	『朝鮮新報』（日本語版）13416号（『朝鮮時報』3044号に再録）	2000・2・16
74	（解説）植民地	『百科で見る20世紀』日立デジタル平凡社（CD-ROM）	2000
75	大会報告に寄せて	『朝鮮史研究会会報』139号	2000
76	金英達さんの死を悼む	『朝鮮史研究会会報』140号	2000
77	韓国学術情報のインターネット検索事始め	『（別冊 本とコンピュータ 3）コリアン・ドリーム』トランスアート	2000
78	「第三国人」ということばの誤解	『グローブ』24号	2001
79	「第三国人」という言葉の起源を考える	『朝鮮史研究会会報』142号	2001
80	韓国は国家的事業で公文書を公開	毎日ムック・PC倶楽部編『インターネット 読む・学ぶ・調べる』毎日新聞社	2001
81	在日大韓基督教京都南部教会	『きょうと府民だより』241号	2001・5
82	教科書問題をめぐるシンポジウムから——次代に歴史をどう伝えるか——	『京都新聞』7月23日	2001
83	歴史教科書問題・「つくる会」教科書はまったく不適當	『季刊 Sai』40号	2001

84	神戸の定宿	『20世紀から21世紀へ 財団法人神戸学生青年センター30周年記念誌』	2002
85	中学校社会科教科書における在日韓国・朝鮮人関係記述の検討 —— 歴史・公民教科書を中心に ——	『京都全朝教通信』42号	2002
86	アジア系外国人学校出身者の受験資格問題を考える	『世界』713号	2003・5
87	社会科教科書における在日韓国・朝鮮人関係記述 —— 中学校教科書を例にして ——	『全外教通信』82号	2003
88	「創氏改名」の実施過程について	『朝鮮史研究会会報』154号	2004
89	조선총독부는 왜 창씨개명을 실시했을까	『내일을 여는 역사』15号 (내일을 여는 역사 재단 편 『질문하는 한국사』 서해문집 (ソウル), 2008年, に再録)	2004
90	「創氏」強制の文書発見 —— 韓国で進む歴史資料の公開 ——	『毎日新聞』2月20日夕刊	2005
91	日韓歴史資料の共有化を —— 歴史認識における「和解」のために ——	『世界』741号	2005・7
92	(史料紹介) 座談会「在日朝鮮人問題に就て」(1948年)	世界人権問題研究センター『研究紀要』10号	2005
93	朝鮮独立運動を援助した弁護士・布施辰治 —— 「国民」からの「在日」排除を批判 ——	『毎日新聞』(大阪本社版) 8月19日夕刊	2005
94	現在から過去へ、そして未来へ —— 「北関大捷碑」と日韓の歴史認識 ——	『神奈川大学評論』52号	2005
95	創氏改名とは何だったのか	田中宏・板垣竜太編『日韓始まりのための20章』岩波書店 (『한국과 일본의 새로운 시작』류즈 (ソウル) 2007年に訳載)	2007
96	夷川ダム(発電所)と朝鮮人労働者	『市民しんぶん』(京都市) 783号	2007・7
97	「皇国臣民ノ誓詞」と「皇国臣民誓詞之柱」についての考察	『朝鮮史研究会会報』168号	2007
98	(書評) 仲尾宏『朝鮮通信使』	『京都民報』2308号	2007・11・4
99	(紹介) 『京都と韓国の交流の歴史』	『グローブ』57号	2009
100	(書評) 井上學『日本反帝同盟史研究』	『大原社会問題研究所紀要』608号	2009・6
101	比叡山で遭難しかけた話	『人文』56号	2009
102	朝野温知(李壽龍)さんの歩み —— 戦前の著述を中心に ——	『身同』(真宗大谷派解放運動推進本部) 29号	2009
103	「韓国合併奉告祭碑」の前で考える	『思想』1029号(趙景達ほか編『「韓国併合」100年を問う』岩波書店, 2011年)	2010・1
104	拙著『創氏改名』に対する永島・宮田両氏の批判に答える	『朝鮮史研究会会報』178号	2010
105	京都の伝統産業と在日コリアン	『市民しんぶん』(京都市) 819号	2010・7
106	「韓国併合100年」と歴史認識	『京都新聞』7月16日	2010
107	日本人は朝鮮の絵はがきに何を見たか	『「写真絵はがき」の中の朝鮮民俗』高麗美術館	2010

108	(文献紹介) 日本の「韓国併合」100 年を考える (第 5 回)	『図書新聞』2980 号	2010・9・4
109	창씨개명을 피해질 수는 없었을까?	『100 년 전의 한국사』 휴머니스트 (ソウル)	2010
110	朝鮮学校への「高校無償化」適用問題を考える	『京都大学新聞』2459 号	2010・9・16
111	植民地期政治史	朝鮮史研究会編『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会	2011
112	(書評・紹介) 柳宗鎬著『僕の解放前後: 1940-1949』	『朝鮮史研究会会報』184 号	2011
113	한국병합 기념비 앞에서	『일본, 한국병합을 말하다』 열린책들 (ソウル)	2011
114	新出資料「デ・ラランデの京城都市構想図」をめぐって	『朝鮮史研究会会報』187 号	2012
115	私の「特殊コレクション	『人文』59 号	2012
116	平壤で考えた植民地支配の歴史	『朝鮮新報』(日本語版) 15181 号	2012・6・27
117	部落解放運動に献身した朝鮮人仏教者 —— 朝野温知 (李壽龍) の歩み ——	『部落解放』669 号	2012・11
118	サンフランシスコ講和条約前後 —— 在日コリアンの法的問題と現在の課題 ——	『季刊 SAI』68 号	2012
119	박태원의 생애를 담고 있는 『운명의 선택』	『근대서지』6 号	2012
120	“おふだ” と町内会	『グローブ』72 号	2013
121	名前から考える歴史と現代	『であい』(全国人権教育研究協議会) 615 号	2013
122	戦前京都帝国大学の朝鮮人留学生	『京都大学コリア同窓会便り』15 号	2013
123	윤동주는 ‘창씨개명’ 을 했는가	『다시올 문학』2013 年秋号 (류양선 편『윤동주 시인을 기억하며』다시올 (ソウル) 2015 年, に再録)	2013
124	朝鮮北部に眠る日本人遺骨	『同朋新聞』(真宗大谷派宗務所) 681 号	2014・8・1
125	戦争は「外国人」に何をもたらしたか	『グローブ』79 号	2014
126	京都帝国大学・第三高等学校の朝鮮人留学生	『京都大学文書館だより』26 号	2014

E 講演録, 座談会, シンポジウム記録など

1	日本の朝鮮植民地支配の実態とその不当性について	『検証・朝鮮植民地支配と補償問題』明石書店	1992
2	(座談会) 今なぜ戦後補償か	『季刊青丘』12 号	1992
3	妄言を考える —— 植民地支配とその遺産 ——	『第 10 回夏期セミナー報告書』KMJ 研究センター	1997
4	京都の在日朝鮮人史	『人権講座講演録 1995 年度』世界人権問題研究センター	1997
5	植民地時期の治安法と冷戦体制	『東アジアの冷戦と国家テロリズム —— 台湾シンポジウム報告集 ——』国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」日本事務局	1997

6	京都における韓国・朝鮮人の形成史	『民族文化教育研究』（京都民族文化教育研究所）1号	1998
7	戦後日本社会と外国人の人権	『世界人権宣言 50周年記念「在日韓国・朝鮮人の人権状況」シンポジウム報告書』京都弁護士会	1999
8	在日朝鮮人の戦中・戦後	『第9回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会 in 金沢 報告書』全国交流集会石川実行委員会	1999
9	外国人学校卒業者の国立大学受験資格をめぐる	『GENTEN』（日朝友好促進京都婦人会議）23号	1999
10	在日朝鮮人の戦中・戦後	『埋もれた歴史に光をⅡ』西宮・甲陽園の地下壕を記録し保存する会	1999
11	戦前京都在住の韓国人の生活	『民族文化教育研究』（京都民族文化教育研究所）3号	2000
12	日本敗戦直後の選挙法改正と「戸籍条項」	『横浜の人権づくり（公務員採用の国籍条項を考える講演集）』横浜市職員採用の国籍条項撤廃をめざす連絡会	2000
13	日本は朝鮮で何をしてきたか ―― 戦後（要旨）	『GENTEN』（日朝友好促進京都婦人会議）25号	2000
14	植民地支配と歴史認識	『1996年度～2001年度 講演録集』大阪市外国人教育研究協議会	2001
15	在日朝鮮人の参政権 歴史と展望	『外国籍市民の参政権を考える連続講座』民族差別と国籍を考える京都の会	2002
16	教科書の中の在日外国人	『2001 多民族共生人権研究会報告集』同実行委員会	2002
17	尹東柱詩碑	『講座・人権ゆかりの地をたずねて（2002年度講演録）』世界人権問題研究センター	2003
18	〈한일세미나〉 21세기 새로운 한일관계와 미디어	『여기자』（한국여기자클럽）13号	2003
19	戦後史の中の民族学校 ―― 国立大学受験資格問題から見えるもの ――	『インパクション』137号	2003・8
20	戦前・戦後日本における民族教育・民族学校と「国民教育」	『東西南北 2004』和光大学総合文化研究所	2004
21	日朝関係の「過去」と「現在」	日朝友好促進京都婦人会議編『日本と朝鮮の関係史』アジェンダ・プロジェクト	2004
22	日本の植民地時代をふりかえる	『多民族共生』（多民族共生人権教育センター）46号	2005
23	中野重治と金斗鎔 ―― 「きくわん車の問題」、植民地支配への賠償、そして天皇制 ――	『情況』第3期6巻8号	2005
24	（座談会）歴史の視点から日韓関係を問い直す	『コリア NGO センター News Letter』6号	2005

- 25 日朝の関係史から見た日本の歴史
—— 植民地支配とは何だったのか —— 『第3回部落解放・人権夏期
セミナー 講演録』（人権に
関する基本法制定と対審
答申完全実施を求める三重
県実行委員会） 2006
- 26 近代日朝関係と教科書問題 『研究会誌』（滋賀県高等学
校社会科教育研究会）50号 2006
- 27 対話と交流をとおして共に生きていくために
—— 日本の植民地支配をふりかえる —— 『共生の時代』（グリーン
コープ連合理事会）224号 2006
- 28 丹波マンガン記念館
—— 戦時下の朝鮮人労働者 —— 『講座・人権ゆかりの地をた
ずねて（2005年度講演録）』
世界人権問題研究センター 2007
- 29 京都の中の近代日朝関係史
—— 長楽館と韓国合併奉告祭碑 —— 『講座・人権ゆかりの地をた
ずねて（2007年度講演録）』
世界人権問題研究センター 2009
- 30 （シンポジウム記録）「大逆事件 100 年を語る」 『月刊むすぶ』473号 2010・6
- 31 （シンポジウム）大谷派における解放運動の歴史と
課題Ⅱ —— 朝野温知（李壽龍） 宗教に差別のな
い世界を求めて —— 『身同』（真宗大谷派解放運
動推進本部）30号 2010
- 32 日本人が見た植民地朝鮮 『高麗美術館館報』89号 2011
- 33 在日コリアンの参政権はどうして消えたか？
—— 戦後日本の出発と「外国人」の法的地位 —— 『メーレック ブックレッ
ト』（多民族共生人権教育セ
ンター）Vol.2 2012
- 34 チョゴリの女性を描いた京都の女性画家
—— 秋野不矩と梶原緋佐子 —— 『講座・人権ゆかりの地をた
ずねて（2012年度講演録）』
世界人権問題研究センター 2014
- 35 植民地朝鮮に生きる —— 図像資料が映し出す生活 『メーレック通信』（多民族共
生人権教育センター）130号 2014
- 36 （シンポジウム）誠信交隣を願って
—— 日朝・日韓関係の歴史と現在 —— 『身同』（真宗大谷派解放運
動本部）35号 2015
- 37 在日朝鮮人を描いた美術作品 —— 京都を中心に
—— 『二〇一五年度部落史連続講
座 講演録』（京都部落問題
研究資料センター） 2016
- 38 植民地朝鮮における治安維持法 『2015年度 東京大学コリア・
コロキウム講演記録』（東
京大学韓国朝鮮文化研究室） 2016

G 事典・辞典類

- 1 開闢, 火田民, 許憲, 金奎植, 金性洙, 元山ゼネスト, 『平凡社大百科事典』 1984-85
光州学生運動, 光復節, 衡平運動, 洪命熹, 湖南財
閥, 崔南善, 崔麟, 新幹会, 申采浩, 朝鮮共産党,
朝鮮建国準備委員会, 朝鮮日報, 朝鮮之光, 東亜日
報, 民族改造論, 呂運亨, 六・一〇万歳運動
- 2 開闢, 学生運動, 火田民, 許憲, 金奎植, 金性洙, 『朝鮮を知る事典』平凡社 1986
元山ゼネスト, 光州学生運動, 光復節, 衡平運動,
洪命熹, 湖南財閥, コミンテルン, 崔南善, 崔麟,
新幹会, 申采浩, 青年運動, 朝鮮共産党, 朝鮮建
国準備委員会, 朝鮮日報, 朝鮮之光, 朝鮮労農総
同盟, 東亜日報, 土幕民, 文化政治, 民族改造論,
呂運亨, 六・一〇万歳運動
- 3 朝鮮貴族, 朝鮮総督府, 朝鮮総督府施政年報 『国史大辞典』 1988

水野直樹教授 略歴・著作目録

- | | | | |
|----|--|--|------|
| 4 | 金奎植, 李東寧, 趙素昂, 申圭植, 申翼熙, 李奉昌, 尹奉吉 | 木村誠ほか編『朝鮮人物辞典』大和書房 | 1995 |
| 5 | 朝鮮半島, 朝鮮総督府, 親日派, 間島, 民生団事件, 三・一運動, 万宝山事件 | 『世界民族問題事典』平凡社 | 1995 |
| 6 | 異域・民族問題 | 『人権年表』(世界人権問題研究センター編集, 京都市発行)(『人権歴史年表』山川出版社, 1999) | 1998 |
| 7 | 朝鮮関係項目の執筆・校閲 | 『広辞苑』(第五版) 岩波書店 | 1998 |
| 8 | 朝鮮独立運動, 朝鮮労農総同盟 | 『日本歴史大事典』小学館 | 2000 |
| 9 | 朝鮮独立運動, 東北抗日連軍, 浮島丸事件, 金天海, 崔南善, 新幹会, 祖国光復会, 白頭山, 李東輝 | 『角川世界史辞典』角川書店 | 2001 |
| 10 | 呂運亨, 西北五道党責任者熱誠者大会, 民主基地論, 延安派, 国内派, 火曜派, 甲山派, ソ連派, ソウル派, 満洲派, 打倒帝国主義同盟, 抗日遊撃隊, 民生団, 朝鮮人民革命軍, 東北抗日連軍, 祖国光復会, 白頭山密営, 普天堡戦闘, 万景台, 朝鮮義勇軍, 金正日選集, 金日成選集, 七連隊 | 『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』岩波書店 | 2002 |
| 11 | 創氏改名 | 『歴史学事典第10巻・身分と共同体』弘文堂 | 2003 |
| 12 | 朝野温知(李寿龍), 金若水, 京都朝鮮留学生学友会, 戸籍, コミンテルン, 産米増殖計画, 創氏改名, 治安維持法, 内鮮一体 | 『在日コリアン辞典』明石書店(『제일코리안사전』선인(ソウル), 2012年) | 2010 |
| 13 | 「安光泉」など24項目, 朝鮮関係項目の選定・校閲 | 『世界人名事典』岩波書店 | 2013 |